

馬防疫強化地域対策事業に係る馬ワクチン接種等地域推進対策検討会

日時 平成27年10月2日(木) 13:30~

会場 名古屋市中区丸の内 大津橋ビル 5階 小会議室

出席者 公社)愛知県畜産協会2名 西部家畜保健衛生所1名 中央家畜保健衛生所2名
 東部家畜保健衛生所1名 一社)愛知県馬主協会1名 愛知県競馬組合1名
 公営競馬獣医師会1名 愛知県畜産課1名 計10名

協議事項

- 1)最近の馬インフルエンザの発生状況
- 2)平成27年度インフルエンザワクチン接種推進事業実施要領について他



2015/10/

馬インフルエンザ 届出伝染病

対象家畜：馬
原因： 血清型は今までに1型と2型の2つの型があり、前者は欧州型 H7N7、後者はアメリカ大陸型 H3N8である。
疫学： 年齢や季節に関係なく発生する。域などで接種されたウイルスを含む飛沫によって伝播する。1型は1980年まで発生が確認されたが、以降報告されておらず、近年流行しているのは2型だけである。
臨床症状： 感染馬は1~3日の潜伏期間で40~41℃の高熱を発し、激しい乾性の咳とともに多量の水性性の鼻汁を出す。二次感染がなければ2~3週間で回復する。気管支粘膜にウイルスが感染することで、気管支炎を伴う気管支炎が認められる。予防： 不活化ワクチン。

ウマ1型インフルエンザウイルスH7N7が最初に分離されたのは、1956年チェコスロバキアのプラハであった。その後、ヨーロッパ、アメリカをはじめ世界中でウマ1型ウイルスによる流行がみられ、1980年まではこのウイルスが分離されていたが、それ以降は確認されていない。一方、1963年にはウマ2型ウイルスH3N8が米国のマイアミで競走馬から分離され、現在までウマ2型ウイルスによる流行が世界各国で引き継がれている。

1971年の東京競馬場における馬インフル

2015/10/1

日本における2007年の流行

2008年10月には339例の発生があり、2009年まで発生が続いた。

2007年8月15日、35年ぶりに発生したフリゲータ系系株(H3N8)による馬インフルエンザは8月中旬に16都道府県に広まり、中央競馬、地方競馬が増えいで中止になった。また、10月6日から開催された秋田国体で参加馬170頭中37頭の感染が確認され、競技中止に迫られた。

フランスの凱旋門賞(10月)、香港國際錦標(12月)、ドバイメーティング(3月)、シンガポールエアライズインターナショナルカップ(5月)など海外遠征の出走取り消しの影響も出てしまった。

日本からOIEへの報告

28/8/2007 緊急通知
 発生事例 2例： 高気圧馬場で227頭、茨城県馬場で247頭が犠牲。
 18/9/2007 経過報告1
 発生事例 49例： 1297頭が犠牲。
 23/10/2007 経過報告2
 発生事例 29例： 447頭が犠牲。
 16/11/2007 経過報告3
 発生事例 29例： 354頭が犠牲。
 27/12/2007 経過報告4
 発生事例 37例： 507頭が犠牲。
 24/1/2008 経過報告5
 発生事例 2例： 18頭が犠牲。
 28/2/2008 経過報告6
 発生事例 1例： 29頭が犠牲。
 25/3/2008 経過報告7
 発生事例 23例： 476頭が犠牲。
 8/2/2008 経過報告8
 発生事例 2例： 2頭が犠牲。
 1/2/2009 経過報告9： 本報告は無傷馬なし。
 2/7/2009 経過報告10(最終報告)： 本報告は無傷馬なし。これ以上の報告はない。